

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 (久居農林高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>少人数教育を生かし、地域に根ざした専門高校を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します。 ・「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します。
		<p>一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自己の成長を実感しながら、将来地域を担う意欲を持った生徒。</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自己の成長を実感しながら、将来地域を担う意欲を持った生徒。</p>
	ありたい 教職員像	<p>専門性を高めるとともに、授業形態や指導内容等の工夫・改善を行い、生徒の成長に喜びを感じ、充実感のもてる教職員。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>○生徒 わかりやすい授業、安心安全で楽しく過ごせる学校、自己の存在が実感できる学校、進路希望の実現</p> <p>○保護者 子どもを成長させてくれる信頼できる学校、進路希望の実現、職業観・勤労観および基本的マナーの定着</p> <p>○地域住民 地域に開かれた学校、将来地域を担う人材を育てる学校、基本的マナーの定着</p>	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>○保護者 学力定着、進路希望実現、卒業後のケア</p> <p>○地域住民・産業界 教育資源の活用、知識や技能・意欲を持った生徒の育成、基礎学力</p> <p>○近隣保・幼・小・中・高校等 教育資源の活用、連携の強化</p>	<p>○保護者 生活指導等への理解と協力、学校行事への参加</p> <p>○地域住民・産業界 教育方針等の理解、学校経営への協力と参画</p> <p>○近隣保・幼・小・中・高校等 教育方針等の理解と協力、連携事業の強化</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・久居農林高校は学科やコース内のつながりが強いが、共通教科と専門学科の教員の連携が大切である。一層連携を強化して指導されたい。 ・新聞記事やテレビの報道を通して農林の生徒の様子がよくわかる。生徒は学校行事にも生き生きと取り組んでいる。今後も「わくわく農林塾」などの取り組みを進め、地域にアピールしてほしい。 ・部活動など低迷だと考えている場合、問題解決の具現化方針を明らかにしてほしい。 ・就職斡旋など進路実現には評価できるが、その成否を図る意味でも追跡調査をするなどその後の定着率などを調査してほしい。 ・遅刻減少など顕著な成果がある。今後は生徒個々に対して、その原因まで掘り下げた分析や対応が求められる。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○生徒が主体となった地域貢献活動 各コースがそれぞれの特色を活かした「わくわく農林塾」の活動はマスコミにたびたび取り上げられていることにより、本校の教育活動に対する地域の理解が広がりつつある。また、生徒は、自分達の活動が目に見える形で評価されたことで自信を持ち、意欲的に取り組むようになってきている。「農業」「家庭」のもつ魅力や学習内容をさらに浸透させていく必要がある。</p> <p>○勤労観・職業観の確立 「日本版デュアルシステム・インターンシップ」「卒業生に聞く」「緑風デー」などの取り組みを進めると共に、進路指導部、担任、コースが連携し、きめ細かな進路指導を行った結果、就職内定100%を継続して達成している。今後は、全ての教育活動をキャリア教育の視点で整理し、1年次より組織的・系統的なキャリア教育を推進し、3年間でしっかりと職業観や勤労観を確立させ、生きる力を身につけさせることが課題である。</p> <p>○クラブ活動 全国大会、東海大会等に出場し活躍しているクラブもあるが、全体的に見るとクラブ活動の成果が低迷していることから、学校全体でクラブ活動の活性化に取り組む必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○少人数コース制 「農業」「家庭」の専門性を高め、生徒のニーズにあった活性化を図ってきた。本校の最大の特徴である「少人数コース制」についてその成果と課題の検証を行い、効果を最大限生かすような教育内容、指導方法になっているか常に確認する必要がある。</p> <p>○組織的な指導体制 個人の能力だけに頼らず「目指す学校像」実現のため、生徒指導や進路指導など組織的に指導する体制が整ってきている。今後、分掌や学科・コースを超えての連携やさらに教職員の力量を高めるためOJTを充実させる必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら学ぼうとする意欲を高めるため、自らが課題を設定し解決する学習活動を推進する。 ・生徒の進路希望を実現するため、あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学だけでなく、その先の社会活動を見通した組織的な進路指導をすすめる。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に提供する学習内容を充実し、学力向上につなげるため、プロジェクト学習やアクティブ・ラーニング等の主体的な学習活動の研究を行い、全教職員が連携して授業改善に努める。 ・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の目的を共有する場を設けるとともに、組織の業務内容を見直し、過重労働の削減等に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1)生徒が主体となるような授業を実践する</p> <p>【活動指標】 わくわく農林塾を各コース1回以上開催</p> <p>【成果指標】 アンケートにより自分の成長を感じたという回答70%以上</p> <p>(2)生徒による授業評価を実施する</p> <p>【活動指標】 アンケートにより授業満足度を把握</p> <p>【成果指標】 授業がわかりやすいという回答70%以上</p>	<p>(1)すべてのコースにおいてわくわく農林塾を実施、ALの手法を取り入れた授業の充実により理解度が上がった。成果指標として、「成長を感じた」というアンケートは全員には実施できなかったが、最も多く実施したコースは90%を超えている。「授業中はしっかり取り組んでいる」89%、「授業の内容を理解している」75%で判断すると概ね良好であると判断する。</p> <p>(2)「内容や説明がわかりやすい」81%等生徒アンケートでは授業満足度等が高い数値がでたが、生徒自身が「授業の復習に取り組んでいる」が30%台にとどまるなど、課題もあり、引き続き学力の定着に努めたい。</p> <p>学力の充実では、朝読の継続および漢字テスト等による学力の定着をはかること、自習を極力減らし実験実習の充実を図るなど授業基盤の確立と学習方法の改善に努めた。また学習環境の整備では、教室整備(備品等の補充、補修)と授業マナーの徹底を図り、起立礼等挨拶の徹底、チャイム着席、私語禁止などは、概ね維持している。</p>	◎
キャリア教育の充実	<p>(1)進路ガイダンスを充実する</p> <p>【活動指標】 3年生3回、1、2年生2回</p> <p>【成果指標】 進路ガイダンスの満足度80%以上</p> <p>(2)主体的に進路を選択する</p> <p>【活動指標】 面接等の指導の充実を図る。</p> <p>【成果指標】 就職内定者数年内95%以上</p>	<p>(1)進路ガイダンスは計画通り実施、就職内定率年内100%を実現した。国公立大学への進学実績は達成できなかったが、国家公務員及び三重県警察官の2名内定が成果と考える。「将来の進路について相談できる雰囲気がある」が85%で、引き続き進路への取り組みを継続していきたい。</p> <p>(2)2年生でのインターンシップ等への参加が農業学科80%、家庭学科100%で進路選択の一助となっている。学校を上げての面接指導や履歴書、作文指導など生徒の自己実現のための組織的な取組は引き続き充実しており、年内就職100%が実現できた。</p> <p>高大接続や基礎学力テストなど、高校生の学力を図る新しい取り組みが進む中、本校でも社会に通用する学力を生徒に定着させる学校としての取り組みが課題である。そのため、この1月から基礎学力充実のためのプロジェクトチームを発足させ、新1年生からの段階を踏まえた教材やテスト選定などを実施する。</p>	※

<p>生徒指導の充実</p>	<p>(1) 服装・頭髪など身だしなみを整える 【活動指標】 頭髪・服装指導年間 8 回実施 【成果指標】 頭髪再指導が 10 % 以内<年度最終> (2) 正しい生活習慣を身につける 【活動指標】 遅刻カウンター・遅刻カードの活用 【成果指標】 学校全体の遅刻の総数を全校生徒数以下</p>	<p>(1)年間を通じての頭髪服装指導を計画通り実施した。1月の再指導者は11%で長髪による指導が多い。「生活やマナーやルールについて指導が行われている」92%で生徒も指導を理解しているが、「生徒指導のルールは他校と比べて適切である」が70%と、やや数字に開きがあり生徒理解度の充実に図っていく(スマホ等の指導に学校差) (2)遅刻については、昨年度より増加し目標の達成はできなかった。(800件)遅刻常習の生徒の指導が急務であるが、家庭状況、友達関係など個々の生徒の事情を鑑み総合的に指導していく。 「クラスに自分の居場所がある」93%で、本校生は学校になじんでいるようである。しかし「学校は生徒の質問や発言にきちんと対応している」が79%で教員側として生徒への対応が課題があると判断する。生徒が充実した学校生活を送るためにも、より生徒理解に努め指導を充実していきたい。</p>	<p>※</p>
<p>保健管理の充実</p>	<p>(1) 健康管理を充実する 【活動指標】 生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高める 【成果指標】 すべての検診について受診 100 % (2) 保健教育を充実する 【活動指標】 健康課題により、集団指導と個別指導を行い、さらには外部講師も活用する 【成果指標】 アンケートによる満足度 80 % 以上 (3) 相談活動を充実する 【活動指標】 保健室での相談活動を中心に行い、SC や発達障がい支援員と連携する 【成果指標】 SC による相談を 5 時間×32 回実施 発達障がい支援員を月 2 回以上招聘</p>	<p>((1)眼科検診 1 名未受診者であったが、他の検診は全員受診した。要精密検査対象生徒については、専門機関への受診率が 100%であった。健康診断の結果報告の配布などで直接保護者へ呼びかけることで専門機関への受診率の向上につながった。 (2)年間 2000 件を超える来室状況より、課題をみつけ、年 6 回の保健だより発行や集会時の呼びかけ、また、各学年 2 回の性教育講座及び薬物乱用防止講話などで保健指導を充実させた。 (3)保健室の健康相談(482 件)と SC や発達障がい支援員の活用(214 件)により相談活動を充実させた。「悩みや生活について相談できる雰囲気がある」81%「クラスや学校に友人が何人かいる」96%等ほとんどの生徒は学校生活が充実していると判断するが、友人関係や家庭的な課題により不安定な生徒も多く、継続した支援が必要と考える。 心身の健康管理について学校だけでは対応が難しいケースもあり、SC や発達障がい支援員、SSW などの活用や、また児童相談所や主治医等相互に情報交換を行い、今後も生徒理解と相談活動の充実に努めたい。</p>	<p>※</p>

改善課題

過半数が就職する専門学校として、社会に通用する基礎力を充実させたい。農業と家庭の専門教科ではわくわく農林塾をはじめとする数々の学習形態や手法を取り入れることにより充実が図られ、生徒や保護者にも評価されている。しかし生徒の大学等への進学実績や専門を生かした進路開拓がまだまだ不十分である。この課題においては生徒個々の潜在能力に着目し、早期から指導することで実績を上げることは十分可能であり、学校として学力向上を図るシステム構築が急務である。平均より低いとはいえ、一定数離職する生徒がいるので、さらなる職場定着のための取組が必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>教職員の各種研修会を実施し、指導力向上に努める。</p> <p>【活動指標】 各学期1回、参加率60%以上</p> <p>【成果指標】 参加者の満足度80%以上</p>	<p>①進学指導等も含めた基礎力診断方法などの研修</p> <p>②特別支援教育として、発達障がい支援についての研修、計2回実施。</p> <p>参加率は、進学60%、特別支援95%。成果として、生徒の基礎力の把握が、進学や就職指導の充実に繋がるため、基礎学力充実プロジェクトチームの発足につながった。特別支援については、生徒理解のための基礎的な知識を得ることが教員としての力量の向上に繋がると判断する。</p>	※
チームワークの向上・意欲の増進	<p>分掌、学科、コース、学年間の連携、情報交換、情報共有に努める。</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握する。</p> <p>【成果指標】 学校経営への参画意欲ありという回答60%以上</p>	<p>「職務分担として学校経営へ参画していると思う」64% 各分掌とも連携はスムーズで大きな問題は生じていない。毎日の連絡調整においても苦情などは少ない。しかし教科や学科、コースにおける連携や情報交換においてや、不十分な点がある。教育活動を進める上で、情報共有や協力関係の構築は必要かつ不可欠な問題であり、チームワーク向上に向けて取り組みを進めたい。</p>	
情報提供による信頼の構築	<p>(1) 学校からの情報発信を積極的に行う。</p> <p>【活動指標】 HPの充実、マスコミ等への情報提供</p> <p>【成果指標】 HPトピックス60件以上、新聞50件以上、テレビ20件以上</p> <p>(2) 進路説明会や高校生活入門講座等により志願者数を増やす。</p> <p>【活動指標】 中学校20校以上、入門講座2回実施</p> <p>【成果指標】 参加者数900名以上、前期選抜の志願倍率2.3倍以上、後期選抜1.3倍以上</p>	<p>(1) わくわく農林塾など情報発信により新聞、TV等のトピックスはのべ80件を越えた。ZTVでの生放送(文化祭案内)などは、来場者の大幅増加につながるなど学校紹介につながった。一方HPについては、他校と比較してシステム的に課題があり、更新がすくないため来年度見直す方向である。</p> <p>(2) 進路説明会、入門講座は例年通り実施し、参加者(夏)(生徒384、保護者108 教員26) 秋(生徒259、保護者66 教員25)、志願倍率2.2倍、後期1.0倍であった。安定した生徒募集について努力していきたい。</p>	
保護者・地域との連携	<p>(1) わくわく農林塾の実施</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握</p> <p>【成果指標】 参加してよかったという回答80%以上</p>	<p>(1) わくわく農林塾等の実施により「農業と家庭に関する専門高校だが授業内容など教科指導は全般的に満足できる」94% また「保護者との連絡や連携を適切に行っている」82% など保護者等の理解は進んでいると考える。また今年度は、地域行事にも新たに複数参加(社協 敬老イベント、久居元気会等)参加しており地域交流に努めた。</p>	

	<p>(2) 保護者との連携</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握</p> <p>【成果指標】 久居農林に入学させてよかったという回答90%以上</p>	<p>(2)「子どもを久居農林に入学させてよかった」92% PTA総会や体育祭・文化祭への多くの来場者も含めて、保護者との連携と理解に努めるように心掛け今後も継続していきたい。</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p>(1) 行事や取り組みの精選をすすめる。</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握</p> <p>【成果指標】 取り組んでいるという回答70%以上</p> <p>(2) 会議の回数削減や時間短縮を図る。</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握</p> <p>【成果指標】 取り組んでいるという回答70%以上</p> <p>(3) 総勤務時間の削減に向け、年次休暇等を取得しやすい環境をつくる</p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握</p> <p>【成果指標】 取り組んでいるという回答70%以上</p>	<p>(1)「体育祭や文化祭など学校行事は適切に行われている」92% 取組については、ほぼ年間スケジュールが固定化傾向にあり、システム的にはスムーズであるように思われるが、新しい取り組みを取り入れる余裕がないこと。また改善の余地がありながら見直し等が進捗しない状況にある。生徒や様々な状況に応じた柔軟な対応が今後の課題である。</p> <p>(2)会議の削減については、時間短縮は毎朝の打合せ等の活用により若干進んでいるが回数削減は難しい状況で、パソコンでの事前資料提供や意見集約を行う方策を取り入れていきたい。</p> <p>(3)「勤務時間の削減に努めている」が42%と目標にはほど遠い。改善にむけての取り組みとして来年度、過重労働の大きな課題である部活動顧問について 担当者の平準化に向けて取り組みを始めた。「現在の仕事に満足している」69%「職場の環境は概ねよい」61%で、さらなる改善が必要である。</p>	

改善課題

創立113年を迎える歴史ある学校だが、一時厳しい評価を頂いたこともある。しかし農業6コース、家庭3コースによる様々な地域交流や情報発信により、保護者や地域から信頼される学校として評価を頂くようになった。様々な取組の成果である。だが取組が単独で実施されることがあり、各コース間の連携が薄く校内であつても意思疎通が十分ではないことがある。組織としてのまとまりにも課題がある。様々な企画運営に懸命に取り組んだ結果、教職員の疲弊感が高止まりしている傾向もある。今後は様々な取組を関連付ける組織作りと効率的な運用等、教職員間の情報共有を図る必要がある。またHPの有効活用等も含め校内外へのより有効な連携が求められる。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>生徒や保護者、教職員アンケートでは様々な指標について評価は高い傾向にある。しかしひとつひとつの指標で判断すると課題もある。先生で「授業へ行くのが楽しい」70%は、「楽しくない」30%の原因を探してほしい。学校改善に向けてより高いレベルで取り組まれない。クラブ活動については、成果だけで判断しないでいいので地道にコツコツ取り組んで頂きたい。</p>
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>学力定着が不十分な生徒や、家庭を含め学習環境に恵まれない生徒のケアについては、様々な取組（SSW、発達障がい支援員、SC の活用等）により充実し、多くの実績もあげている。しかし国立大学への進学が実績として近年低迷していることもあり、生徒の潜在能力を伸ばす取組を実践したい。入学時からのニーズの掘り起こしはもちろんの事、保護者への情報発信、目標とする大学との連携等高大接続を積極的に進めるとともに個々の教職員が積極的に取り組めるようシステム作りを進めたい。アクティブラーニング型の授業を実践する教員も増えてきたが、これを学校全体に広げていきたい。</p>
学校運営についての改善策	<p>少人数クラス編成やコース制は、生徒個々の教科及び生徒指導上大きな成果がある。反面教員一人一人の授業時間や担当職務が膨大なものになっている。過重労働は日常化しており、部活動を含め教職員の勤務の片寄りもある。様々な課題を個人の力量と努力に頼るのではなく、組織として解決していきたい。そのため会議の見直し、舎監や部活動顧問の平準化、行事の精選等を実施し、見える形で教職員の負担軽減を図っていきたい。また学校運営に参画していると思う教職員が65%にとどまっているので、生徒急減期に向けての学校のあり方等一人ひとりが考えを出しあい、全体的にまとめていくしくみをつくりたい。</p>